

神戸の都心の未来の姿〔将来ビジョン〕・三宮周辺地区の『再整備基本構想』
合同報告会

平成27年9月3日

神戸の都心の未来の姿 [将来ビジョン] ・ 三宮周辺地区の『再整備基本構想』 合同報告会

1 日時 平成27年 9 月 3 日 (木) 午前10時30分～午後 0 時00分

2 場所 神戸メリケンパークオリエンタルホテル 4階「海王」

3 出席者 39人

(1) 地元組織代表

浅 木 隆 子	小 田 俱 義
久 野 茂 樹	坂 本 罔 昭
清 水 俊 博	曹 英 生
土 井 一 三	富 岡 良 典
永 田 耕 一	奈良山 貴 士
古 川 勝	松 下 秀 司
松 添 雄 介	三 浦 繁 男 (代理：岸本)

(2) 市民代表

岩 佐 光一朗	玉 田 はる代
---------	---------

(3) 交通事業者代表

奥 野 雅 弘	平 野 剛
宮 本 一 郎	村 田 豊 喜
横 山 章	長 尾 真
宇都宮 道 夫 (代理：岩村)	中 谷 靖
西 村 幸 久	吉 川 紀 興

(4) 経済団体代表

植 村 一 仁	植 村 武 雄
松 田 茂 樹	

(5) 学識経験者

小 谷 通 泰	加 藤 恵 正
末 包 伸 吾	長 町 志 穂
牧 紀 男	相 良 二 郎

(6) オブザーバー

国土交通省近畿地方整備局	松 村 知 樹
国土交通省近畿運輸局	北 川 健 司 (代理：重末)
兵庫県県土整備部	貝 塚 史 利
兵庫県警察本部	三 宅 佳 史 (代理：稲田)

4 議事

- ・神戸の都心の未来の姿 [将来ビジョン] ・三宮周辺地区の『再整備基本構想』表
- ・将来ビジョン及び再整備基本構想の推進に向けた意見交換

5 議事の内容 別紙のとおり

1. 開会

○三島都心三宮再整備担当部長

皆様、おはようございます。大変お忙しい中、ご参加いただきまして、ありがとうございます。

開会に先立ちまして、委員の皆様にご確認させていただきたいと思っております。本日は報道機関より当委員会の報告会の風景を撮影したい旨、申し入れがございましたので、将来ビジョン並びに三宮の基本構想の発表を行った後、意見交換に入るまでということで許可したいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

○三島都心三宮再整備担当部長

ご異議がないようですので、撮影を許可したいと思います。報道機関の方は撮影していただいて結構です。

それでは、ただいまより、神戸の都心の未来の姿 [将来ビジョン] ・三宮周辺地区の『再整備基本構想』合同報告会を開催させていただきます。

私は、住宅都市局計画部の都心三宮再整備担当部長の三島でございます。事務局といたしまして、進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、報告会を進めるに当たりまして、まずはお手元の資料を確認させていただきます。クリアファイルの中に今回の議事次第と委員名簿並びに将来ビジョンと再整備基本構想の冊子が入っております。また、机の上には、A3判ホッチキスどめで7月13日から8月12日まで行いました市民意見募集の結果、前回の都心の『未来の姿』検討委員会並びに三宮構想会議の議事録を置いております。参考資料につきましては、必要であればお持ち帰りいただいて結構です。必要でない委員の方は、机の上に置いておいていただきましたら、会議が終わり次第事務局で回収させていただきます。また、本日、言い足りなかった意見をご記入いただく用紙をあわせて配付いたしております。資料に不足があれば、お申し出ください。

2. 委員の紹介

○三島都心三宮再整備担当部長

続きまして、本日のご出席いただいております委員及びオブザーバーの皆様のご紹介でございますが、委員名簿をご覧くださいことで省略させていただきたいと思っております。なお、新たに、本日委員になられた方のご紹介をさせていただきます。

兵庫県のバス協会の長尾委員でございます。

○長尾委員

おはようございます。よろしく申し上げます。

○三島都心三宮再整備担当部長

また、本日の代理出席の委員をご紹介します。

神戸の都心の『未来の姿』検討委員会の地元組織代表の三浦委員の代理といたしまして、岸本様に参加いただいております。

○岸本委員

岸本です。よろしく申し上げます。

○三島都心三宮再整備担当部長

また、三宮構想会議の交通事業者代表の宇都宮委員の代理といたしまして、岩村様にご出席いただいております。

○岩村委員

岩村です。よろしくお願いたします。

○三島都心三宮再整備担当部長

それでは、まずは、開会に当たりまして、神戸市長の久元よりご挨拶申し上げます。

3. 市長挨拶

○久元市長

おはようございます。神戸の都心の未来の姿〔将来ビジョン〕、そして、三宮周辺地区の『再整備基本構想』の合同報告会を開催させていただきましたところ、検討委員会、また、三宮構想会議の委員の皆様にはお忙しいところ、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございました。振り返れば、都心の『未来の姿』検討委員会を設置させていただきましたのが、昨年3月、三宮構想会議は昨年7月ということでした。委員の皆様には、この間、1年半、あるいは、1年以上にわたる期間、委員会あるいは、会議を開催させていただきましたけれども、その都度ご出席をいただきまして、積極的な、そして、いろいろなご意見を頂戴いたしまして、本当にありがとうございました。あわせて、300人会議だとか、あるいは、対話フォーラムだとかということで、幅広い市民の皆様のご意見をいただきながら、都心の未来の姿の〔将来ビジョン〕、そして、三宮周辺地区の『再整備基本構想』を取りまとめることができました。本当にありがとうございました。

この都心の再生、そして、三宮の再整備は、長く待ち望まれておりましたけれども、神戸は震災からの復旧・復興、そして、その後の財政再建に全力を傾けておりましたので、待ち望まれていたけれども、これに取りかかることはできなかったというのがこれまでの現状でした。大変、難しい課題でしたけれども、何とか、この将来ビジョンと再整備基本構想を取りまとめることができたのは、神戸の将来を考える上で大変意義深いものであると考えております。これは大変、長期にわたる時間が要すると思っておりますけれども、しかし、

必ずこれを推進していかなければならない。推進していくことが、神戸の将来の発展のために不可欠であると考えております。

今日は、このビジョンと再整備基本構想をどう進めていったらいいのかということにつきまして、報告の後、委員の皆様から忌憚のないご意見をお伺いしたいと思っております。確実に進めていくためにどうしたらいいのかということ、ぜひ、よろしくお願いを申し上げたいと思います。神戸市としての基本的な考え方ですが、言うまでもありませんが、この将来ビジョンと再整備基本構想の具体化を逐次図っていきたいと思っております。

都市計画の手續が必要なものは、必要な準備に取りかかっています。また、ガイドラインなどの策定が必要なものについても、そのような準備に入っていきたいと思っております。そして、この三宮周辺地区の『再整備基本構想』の中では、まず、着手ができる可能性が高いエリア、これが三宮駅の東南方向に当たる、現在の中央区役所、あるいは、勤労会館を含むエリアです。ここは、神戸市が主体的に進めることができるエリアですから、このエリアでの種地の創出を含む事業着手ということについて、できるだけ具体的に進めていきたいと思っております。ここから始めまして、この構想の中に盛り込んでいる、例えば、東遊園地の再整備といったことについても、もう既に芝生の実験なども始めていますけれども、できるだけ速やかに進めていきたいと思っております。それ以外に、このビジョン、構想に盛り込まれている事柄については、今日、改めて皆様方のご意見をお伺いしながら、今年度に必要な準備を進め、そして、平成28年度予算の中で具体化できるものについては、しっかりと具体化し、そして、中長期的な視点に立ちながらもスピード感を持って、これらのプロジェクトを進めていきたいと考えております。どうぞ、よろしくお願いを申し上げたいと思います。ありがとうございました。

○三島都心三宮再整備担当部長

次に、私のほうから、前回、6月18日の会議以降の経過をご説明させていただきたいと思っております。

まずは、神戸の都心の未来の姿〔将来ビジョン〕ですが、前回の検討委員会の議論では、観光と文化は意味合いが異なるため、分けて整理すべきという意見や防災上非常時に使用する水の確保について記載すべきという意見をいただきました。そのような点を踏まえまして、加藤会長とご相談の上、それらを反映させた上でパブリックコメントにかけさせていただいております。

また、三宮周辺地区の『再整備基本構想』ですが、イメージがうまく伝わっていない。わかりにくいなどのご意見をいただきました。そのような点を踏まえまして、小谷会長と相談の上、A4判に編集をし直し、イメージを伝えるために、わかりやすく描いたダイジェスト版を本編の最初の部分に差し込んだ上でパブリックコメントをかけさせていただいております。

パブリックコメントでは、ビジョンと構想の両方をあわせて156通のご意見をいただい

ております。内容につきまして熟読させていただきまして、区分させていただいた結果、348件の内容の意見をいただいております。いただいたご意見には、これから、検討すべき具体的なアイデアが多くありました。その中で都心のビジョンや三宮の構想に盛り込むべき意見といたしましては、国際都市の打ち出しや、医療産業都市との連携ということ。そして、三宮周辺地区の『再整備基本構想』におきましては、文化という視点が弱いということをご指摘いただきましたので、これらの視点を盛り込むことで反映させていただいております。現在、お手元にお配りしているものが完成版となっております。内容につきましては、後ほどご説明させていただきます。

ここからの議事進行は、神戸の都心の『未来の姿』検討委員会の会長をしていただいております、加藤先生にお願いしたいと思っております。

加藤先生、よろしくお願ひいたします。

○加藤会長

皆さん、おはようございます。市長からのお話もありましたけれども、これまで非常に密度の濃い議論をこの二つの会議でしていただき、また、市民の皆さん、関係者の皆さんからもたくさんのご意見をいただいた。その成果ということで、今日、事務局のほうで整理していただいたものを見せていただくということになるわけでありまして。時間も限られております。早速、事務局のほうから、今回の将来ビジョン、三宮の構想について、ご報告、発表をお願いしたいと思います。

それでは、よろしくお願ひいたします。

4. 議事

神戸の都心の未来の姿〔将来ビジョン〕・三宮周辺地区の『再整備基本構想』の発表

○若林都心三宮再整備担当課長

住宅都市局計画部都心三宮担当課長の若林のほうから、ご説明をさせていただきます。

まず、お手元のほうに、策定しました神戸の都心の未来の姿〔将来ビジョン〕と、三宮周辺地区の『再整備基本構想』の冊子をお配りさせていただいております。時間が限られてございますし、委員の皆様は、十分にこの内容を熟知されていると思っておりますので、ここでは少しかいつまんだご説明になるかと思っております。また、プロジェクターのほうをご覧いただきながら、ご説明のほうをお聞きいただければと思っております。

策定までの過程を簡単に振り返らせていただきますと、まず、平成25年12月に最初の意見募集を行わせていただきました。その後、市長からもございましたとおり、第1回都心の「未来の姿」検討委員会を平成26年3月19日に開催し、第5回までやらせていただきました。三宮構想会議は4回開催させていただきました。それと並行いたしまして、市民参加型の300人会議や対話フォーラム、シンポジウムなどのイベントを開催し、市民を初め、

委員はもとより、イベントにご参加いただきました方々からたくさんのご意見、アイデアをいただきました。そのようなご協力をもちまして、本日、この都心の将来ビジョンと三宮周辺地区の『再整備基本構想』を策定することができました。誠にありがとうございました。

都心の将来ビジョンの概要を説明します。これは、都心の将来像をイメージしやすいように、パースなどを用いていまして、ビジュアル的にまとめさせていただいております。皆さんに共有していただき、皆さんと一緒に、こんなまちをつくっていくんだという大きな方向性を示したものでございます。

では、神戸の都心をどうすればもっと誰もが住み、働き、学び、憩い、訪れたいのか。神戸の魅力とは何か。神戸らしさとは何か。これまで、皆さんと熱く議論した結果、人が主役のまち、居心地のよいまちを追求すべきという意見にまとまってまいりました。その結果、コンセプトは、「日々の刺激と物語が生まれる美しき港町・神戸」としました。将来ビジョンの大きな概念として、三つの柱を立てました。一つ目は、「心地よいデザイン」。二つ目は、「出会い、イノベーション、そして文化」。三つ目は、「しなやかで強いインフラ」です。

次に、三宮の『再整備基本構想』の考え方です。都心の中でも中心核である三宮周辺地区は神戸の象徴であり、リーディングエリアです。そのような観点から、都心の将来ビジョンの方向性や考え方を受けまして、三宮の『再整備基本構想』を策定しております。今回の構想の中身は、大きなアウトラインを定めたものとしております。この構想をもとに、今後、具体的な調査や、その実現に向けた検討に取り組んでまいります。

三宮の『再整備基本構想』のまちづくり方針も人の視点から五つにまとめております。「笑顔で歩く」、「気持ちよく動ける」、「誘う魅力が溢れる」、「海・山、神戸らしさを感じる」、「支え、まもり育て、発信する」としてあります。この五つの方針も将来ビジョンの三つの柱を受けたものでございます。

先ほどの、都心の将来ビジョンの三つの柱には、まちにとって必要な三つの要素、一つ目は個性、アイデンティティー、二つ目は創造性、クリエイティビティー、三つ目は持続性、サステナビリティと言われていますが、それを順に、心地よいまち、クリエイティブなまち、安全・安心なまちという形で示しています。三つ目の柱の安全・安心なまちは、以前から、また、震災以降もずっと取り組んでまいりました。この新しいステージでは、一つ目、二つ目の柱で、神戸らしい特徴や特色を少しとんがった形で打ち出していこうとしました。つまり、私たちが目指す神戸の都心は、心地よいプラスクリエイティブなまちです。この表現に込められている思い、神戸の都心で表現したい思いは、このまちで過ごすことが誰にとっても本当に心地よいと思ってもらえること、そして、人々の出会いから、さまざまな物や事が、新たに生み出されることです。そして、この思いを、まずは三宮周辺から先導的に具現化していきたい、神戸の玄関口にふさわしい新たな魅力ある都

市空間を創造したいと考え、その結果が、三宮の『再整備基本構想』に示しています、「えき~まち空間」です。

「えき~まち空間」について、少し詳しくご説明いたします。ご存じのとおり、三宮には、狭いエリアに六つの鉄道とさまざまなバスが乗り入れています。この駅やバス停などがある範囲をあたかも一つの大きな駅と捉えます。また、皆さんが仕事をしたり、楽しんだりする場所、例えば、センター街やフラワーロード周辺など、そういったまちの部分と重ね合わせた、駅とまちが交わる空間を「えき~まち空間」と表現しています。まだ抽象的ですが、それを少し具体的にどういった空間にしていくのか、五つのポイントでご説明いたします。

まず、この「えき~まち空間」は、基本的には自動車が入れない、人と公共交通が優先の空間にしてみたいです。

二つ目です。公共空間と民有地を一体的に活用し、地上部と地下街やデッキなどを行き交いやすく、また、わかりやすい空間にしてみたいです。例えば、国際会館の階段のように、民有地の中に、地下と、またデッキとつながる、エスカレーター、エレベーターも見れます。そのようなわかりやすい場をつくってみたいと思います。先ほどの、車が入れない、そういう人と公共交通優先の取り組みをあわせると、「えき~まち空間」におきましては、平面的にも上下方向にも自由に歩いていける空間が格段に広がってみたいと思います。

三つ目は景観の話です。三宮におり立ってすぐ、神戸に来たと感じられるような空間にしてみたいです。絵はがきになる、誰かに伝えたい、そんな美しく魅力的な景観にしていきたい。デザインコードによって、公共空間と民有地を一つの風景として、作り込んでみたいと思います。ここまでがハード的な整備の部分と思いますが、神戸を感じながら、自由に歩ける空間を創出していく、そういう意味です。

4点目です。にぎわいを生み出す機能集積の話です。人々を引きつける商業、業務、文化、情報発信機能をこれまで以上に高めるとともに、さまざまな物や事が生み出される場となるため、産業の新しい取り組みとして、スタートアップオフィスや、大学・企業との連携・交流拠点、また、ポートアイランドで展開している医療産業との連携拠点など、魅力ある都市機能を集め、たくさんの人々を引きつける場としてみたいです。

最後に、5点目です。集まった人々が常に心地よく滞留し、交流し、にぎわう場所としてみたいです。そのため、エリアマネジメントなどの仕組みを導入し、この空間をさまざまな使い方ができるように柔軟に活用してみたいと思います。

以上、五つのポイントを具体化してくのがこの「えき~まち空間」となります。

そして、この「えき~まち空間」を実現するため、中心となり、また、行政としても積極的に取り組んでいく部分に当たるのが三宮クロススクエアです。三宮クロススクエアとは、三宮交差点を中心にフラワーロードと中央幹線、この二つの幹線道路において、自動車が行き交っている空間を人と公共交通のための空間に転換した十字型の広場、クロス型のス

クエアという意味です。

以上が、心地よいプラスクリエイティブなまち、神戸を実現する代表的で一步踏み込んだ大胆な施策、「えき~まち空間」及び三宮クロススクエアの説明となります。

さて、「えき~まち空間」は公共交通を優先した空間であるをご説明いたしました。将来ビジョンでは、心地よいプラスクリエイティブ、そんなまちを支える都心の交通体系の見直しを掲げております。例えば、LRT、BRTや、セグウェイなどのパーソナルモビリティ、また、乗り捨て可能な自転車や自動車のシェアリングシステムなどといった新しい交通手段と既存のバス交通の再編も含め、さまざまな交通手段をうまく組み合わせた交通システムをつくり出してまいります。また、ゾーン内均一料金制度の導入やスムーズに乗りかえができる運行ダイヤの検討などを行っていきたくと考えております。

これまで「えき~まち空間」、都心の交通の取り組みをご説明しましたが、神戸の都心にはモザイク状にさまざまな目的を持った人々が集まる都市機能や施設がございます。そのような行き先自体の魅力を高めることも重要です。また、新たにつくり出すことも必要でしょう。例えば、ウォーターフロント。ここは今後、神戸を代表する大きな目的地として、魅力あるスポットに整備してまいります。公共空間の代表である公園、東遊園地も魅力的なスポットとして利活用してまいります。元町、大丸前スクランブル付近を心地よいたまり空間にし、周辺エリアへの回遊拠点としてまいります。また、街角のしつらえを工夫することで、例えば、質の高い音楽が流れるような魅力的な空間を生み出してまいります。商店街は既に、にぎわいのスポットですが、夜も昼も一日中、もっと魅力的で特徴のあるにぎわいを出していく、こういうことも必要となってまいります。

さて、幾つかお話しました取り組みですが、将来ビジョンの実現に向けまして、できるものから、すぐに取りかかっていく。そういったことで、早く変化を感じていただき、その効果や魅力の向上など将来ビジョンの進捗が皆さんに感じていただけるように進めてまいります。また、地域の皆さんと、今後、それぞれのエリアでもう一步踏み込んだ計画を描いていくことも引き続き検討してまいります。将来ビジョンにお示しさせていただいております施策のうち、既に、動き始めている取り組みをご紹介します。

まず、産業振興局で行っております、事業を興したいと考えている起業家を支援するスタートアップオフィスの開設やそれに伴うアクセラレーションプログラムの導入です。そして、食を軸とした新たな都市戦略である食都、神戸の取り組みとして、海外での神戸の食のプロモーションを進めていきます。また、三宮センター街では、店主の皆さんが委員会を立ち上げ、夜のまちを活性化しようと、夜バルの取り組みを始められております。さらに、地元の方々が結成した委員会と行政が連携しまして、東遊園地の活性化の社会実験として、ホワイトディナーやアーバンピクニックといった催しを行っております。

また、建設局では、コベリンというコミュニティサイクルを導入しており、今後も順次拡大してまいります。

環境局では、新たなエネルギー供給施設である水素ステーションの導入に取りかかっております。

さらには、環境局と住宅都市局とで、周辺ビルが相互にエネルギーを融通し合うシステムを検討しております。

そして、住宅都市局が行っている鯉川筋での道路空間のリデザインの取り組みやLRT・BRTの導入可能性検討、カーシェアリングの社会実験などがあり、既に市内一丸となって、都心全体の魅力向上に取り組んでいるところでございます。

そして、神戸がいつまでも魅力的なまちであり続けるため、いわゆる、持続可能なまちとなるために、海、山に囲まれた神戸らしい特徴を生かす、そのため、建物の高さ規制の検討と、また、都心居住の適切な誘導、促進方法などの検討も進めてまいります。

一方、三宮周辺地区につきましては、再整備の具体的なステップを描きながら、事業を進めてまいる必要がございます。最初のステップとして、まずは、三宮東エリアでのバスターミナルの整備が急務と考えております。バスターミナルの整備に向けて、中央区役所や勤労会館をどうするのか、検討を始めております。また、整備エリアの地権者の方々と一緒に事業化に向けた検討を行うとともに、バス事業者ともバスターミナルの機能的な整備、効率的な運営に向けた協議を始めてまいります。

また、三宮の駅前では、JRさんや阪急さんが駅ビルの建て替えを検討されております。建て替えに際しては、新たな神戸らしさを生み出す、すばらしい「えき~まち空間」を実現できるよう、ご配慮とご協力をお願いしているところです。

さらに、「えき~まち空間」を実現していくためには、このエリアの、例えば、交通センタービルさん、マルイさんの街区、そごうさん、そして、サンセンタープラザさんなど、周辺の関係者のご協力とご参画が必要と考えております。

これまで、機会あるごとに都心の将来ビジョンや三宮の『再整備基本構想』につきまして、広く周知させていただいているところです。そのような中、実現に向けて、自ら何ができるのか、将来検討を始めていただいているところもでございます。また、この「えき~まち空間」が心地よい、クリエイティブな空間になるためには、地権者だけでなく、地域の住民の方々、来街者のなど、さらに、行政が一体となって取り組んでいく必要がございます。ぜひとも、ご協力をお願いいたします。

以上で、[都心の将来ビジョン]や三宮の『再整備基本構想』のご説明は終わります。これから、我々としては、行政みずからが速やかに取りかかっていく、また、既に始まっている市民や民間主導による動きを確実に大きな流れにしていく、こういうことが肝要と考えており、さらに、このような神戸の状況を、市域を越えて発信していきたいと考えております。皆さんと夢のある将来像を共有し、スピード感を持って実現していきたいと思っておりますので、ぜひ、この後、それぞれのお立場で何ができるのか、また、どのように推進していくべきかにつきまして、積極的なご意見やご議論をお願いしまして、私から

の説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

将来ビジョン及び再整備基本構想の推進に向けた意見交換

○会長

ありがとうございました。

冒頭、お約束させていただきましたけれども、報道機関の皆さんの撮影はここまでということにさせていただきたいと思いますので、どうぞ、よろしく願いいたします。

そうしましたら、皆さんから改めて、ご意見をいただければと思います。今、事務局からお話ありましたように、皆さんの1年半の議論の成果、市民の皆さんの意見を整理する形で、こうした成果になっているわけであります。そういう意味では、これを具体的にどのように推進していくのか。どういう役割を皆さんが果たし得るのかというようなことについて、ぜひとも、積極的なお立場、視点でご意見を賜ればと考えておりますので、どうぞ、よろしく願いいたします。

○委員

すばらしい内容に、非常に感銘しております。都市の将来像を描くときに、私たち専門家がこの数年間、世界の各地を歩いて回り、感じてきた必要なこと、例えば、人中心のまち、公共交通を中心とするまち、そういったことが全て盛り込まれて、本当に感慨深い瞬間でございます。私のほうからは、一つ、これらを短期、長期でやっていく上でお願いしたいことが、デザインを全ての機能的なことを実現していく、あるいは、ソフトを実現していく全てのことに、デザインのチェック機能を働かせていただきたいということです。

例えば、私の専門で言いますと、夜間景観でございますけれども、全ての評価できる世界の各都市には、例えば、すばらしいLRTのシステムには、すばらしいLRTの夜景があります。美しい市民広場、あるいは、歩行者空間、ストロイエを初め、世界の各都市には脱車社会ですばらしい歩行者空間や、港夜景があるわけですがけれども、そういったものは、日中と夜景、全てがデザイン的に処理されております。ぜひ、デザイン委員会、あるいは、景観審議会等、既に、神戸は、そういったものが機能しておりますので、これから、つくっていくもの全てに、チェック機能を働かせていただきたいと思います。残念ながら日本では自動的に夜景まできれいにできるというような状況ではございません。例えば、少し目を離すと、真っ白なキラキラしたつぶつぶのLEDで覆われてしまうようなことがありますので、このすばらしい構想を実現する上で、プラス、両輪でご検討していただけたらと思います。

内容について、非常に感銘しております。ぜひ、みんなで実現していきたいと感じました。以上です。

○会長

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○委員

まとめていただいた努力に非常に感謝します。お疲れさまでした。実際にやっていくに当たって、幾つか、すぐに対処をしていかないといけないことがいろいろあると思います。中でも、三宮の再開発をこれからしていくという中でいうと、JRさんと阪急さんのビルが多分、大きな要素になってくるかと思います。せっかく両方の会社からここに委員を出していただいて、皆さんと一緒にお話をしてきたわけですから、ぜひとも、一蓮託生とは言いませぬけれども、できるだけそれに協力をお願いしたいと、何よりも思います。突然、とんでもないビルが先に構想されたりということがぜひともないように、委員として心よりお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

その部分で言うと、やはり最終的には、トップ対トップの話になるかと思います。市長におかれましては、ぜひ、そこら辺ところを踏まえて、トップと重々お話をしていただいて、それも、みんなにわかるようにお話をしていただければと思いますので、これも重ねて、お願いをします。

それと、せっかくできたこういう委員会ですので、これをこのまま存続させるということではないと思いますけれども、構想を進めていく中で、実際の経過や、つくられていく経過というのを評価していくとは言いませぬけれども、我々がまちの中で、それなりの役割は果たしていくわけですけれども、全体としてもそういうものをきちんと観察するといえますか、そういう組織が、これから要るのかなと思います。これが、まだできていない、どうなっているのかいう、ご意見番のようなことをやっていく組織がないと、景観だけではなくて、全体にとってのバランスがあると思いますので、そういうものをきちんと持っていたほうが良いと思います。

それと、特に三宮が中心ということになるわけですけれども、周りを、この中で言いますと、ウォーターフロントや、元町周辺など、そういうものをどんなふうにしていくのが、もう少し具体的にできていかないと、実際に、これが成り立っていないと思いますので、そういうものもどういう形で進めていくのか、きちんと、わかるようにしていただきたいと思います。

○会長

ありがとうございます。

ご指摘になった、こういうプロセスをどう評価するのか、見るのか、このあたりについては、実は、この会議が始まる前に、事務局と随分、相談をして、議論をして、やはり最終成果が出てくることと同時に、そのプロセスを大事にしましょうということで、いろいろと皆さんと議論した記憶があります。先ほどの発言は、そうしたものをさらに第三者がきちっと見ていくことが必要だろうというご指摘であったと思います。これは大変大事な

ことだと思しますので、事務局のほうで、ご検討していただければと思います。

ほかに、いかがでしょうか。

○委員

とてもすばらしくまとめられて、最初の委員会的时候にあった、わくわく感という言葉がキーワードかなというところも見事に入っている、すばらしい構想だと思います。あと、スピード感ということが多々説明であったと思いますが、よりスピードを促進する意味で、例えば、これが全部できたときに、昔、アーバンリゾートフェアという行事があったと思いますが、そういう成果を世間に知らせる何か行事があれば、よりスピード感が増すのかなと思いました。以上です。

○会長

具体的な提案ありがとうございます。

○委員

ありがとうございます。どうも、お疲れさまでした。

これを進めるに当たりまして、道路占用の問題というのが大きいと感じております。私どもの地元のほうで、自転車とか不法占用に対して、毎月一回パトロールをしておりますが、自治会の役員の方から、不法占用物が非常に増えているというお話が最近多く聞かれるようになってきております。これは自転車の問題もありますが、特に今、看板の問題の状況が悪くて、不法看板が道路上にどんどん出てきて、ぐちゃぐちゃな状態になっていきます。まず、道路の占用をどうするのか。国のほうで小泉政権のときに道路のオープン化、道路をどう活用していくのかという議論をされて、それが民主党政権になって、今、安倍政権になって、その辺が明確になっていませんが、道路をどう活用していくのかということは法的整備も要りますし、道路占用を含めて、まず、本年度はきちっとその辺の話を詰めておかないとB I Dもできませんし、道路自体が不法占用状況にあっては、まちをいくらきれいにしても、同じことになると思います。前提条件として、どういうふうな道路占用基準をつくっていくのかということ、まず、やっていただかないと、この構想を進めるに当たって、最後の最後に詰まってしまうということになるのではないかと危惧しております。以上です。

○会長

ありがとうございます。法的な仕組み、このあたりはご専門のエキスパートが大勢並んでいると思うので、また、ご議論、ご指導もいただきながら、よろしくお願ひしたいと思ひます。

ほかに、いかがでございましょうか。

お願ひします。

○委員

大変すばらしい冊子ができて、喜んでおります。三宮東地区に、中長距離バスの集約セン

ターのようなものを構想されているわけですが、確かに、震災前から、東エリアの地域活動をしている者からいけば、阪神三宮駅の東口を設けてほしい、JR三ノ宮駅の東口を設けてほしいという嘆願書を出しまして、阪神三宮駅東口は、2012年3月にやっとでき上がりまして、東のほうに人が回遊する状況に今なっています。そうしますと、将来的に、中長距離バスセンターを東エリアに考えておられる、このイラストがありますが、この北側にJRの東口を、プラットフォームを延伸していただきまして、そこにアクセスしていただくようなことを地域の皆さんと一緒に以前から嘆願しています。JR東地域では、今、ダイエーが改装オープンしまして、かなり人の流れができて、阪神東口、ミント神戸、そして、ダイエーへとつながって、東のほうへの回遊が今できています。そういった中でJRの東口ができましたら、東への動線ができて、東の回遊性がもっと高まっていくのではないかと思いますので、一緒に、そういったことも検討していただけたらと思います。

○会長

ありがとうございました。

ほかに、いかがでございましょうか。

お願いいたします。

○委員

長い期間をかけられまして、すばらしい計画ができたこと、本当にご苦労をたたえたいと思っております。

市長からも三宮の東南のエリアからまず着手するというお話がありまして、バスの乗降場、ターミナルができるということ、本当にありがたく思っております。長年、このバスターミナルにつきましては分散しておりましたので、バス会社といたしましても悲願であったと思っております。これが1カ所になるということで、バス事業者といたしましても、現在、兵庫県バス協会の中にJRバスさんも理事として入っていただきました。そういった中で、今後、小委員会や、ワーキンググループなどをつくっていただけましたら、我々が中心となって、バスの乗降場につきましては、いろいろと意見をまとめさせていただきたいと思っておりますし、そういった努力をしていきたいと考えております。また、先ほどおっしゃいましたように、JRの東口ですけれども、こちらについてもバスターミナルにとっては非常にありがたい動線となると思っておりますので、同時に進めていただければと考えておりますので、よろしく申し上げます。

それと、先ほど、ご説明の中に、市民の方々にまちが変化しているということを感じられる、そういった計画づくり、進め方をしていきたいというお話もありました。この中で、BRT、LRTというお話もありましたけれども、バス事業者といたしましても、BRTにつきましては、積極的に参画していきたいという考えを持っておりますので、ご配慮いただけますように、よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○会長

ありがとうございました。

ほかに、いかがでございましょうか。

○委員

このビジョンと構想は、本当に立派にまとまったと、思っております。当然、ビジョン、構想というレベルですが、十分に市民の皆さんに評価いただけるものがあったと思っております。この委員会のメンバー、会議のメンバーとして働かせていただいたことを、私自身もうれしく誇りに思う次第であります。何よりも、神戸市当局が、この会議であれ、300人会議であれ、フォーラムであれ、すごい努力をされて、資料、データを整理され、ミスリードしないようにやっていただいたことに心から感謝しています。また、加藤先生、小谷先生のリーダーシップ、お力に改めて敬意を表すところであります。

ただ、皆さんが今まで言っておられるように、これからは、やはり実行です。ビジョンができた、構想ができた、ここで一休みではない。神戸は、震災のこともあって、都心の再整備が遅れています。ですから、スケジュール感を持って、早くやれることからきちっとやっていただきたい、優先順位もつけてということであります。そんな中で、今日、最初の市長のご挨拶に、にじみ出ていますが、とにかく実行することが一番大事です。構想をつくるのが目的ではなくて、構想ができれば、それを実行に移すということであります。最初のご挨拶の中では、三宮駅の東南と表現され、中央区役所、勤労会館の名前も出され、そして、東遊園地という名前を出されて、優先的に取り組むとおっしゃいました。例えば、都市計画審議会や、都市計画の手续、あるいは、年度予算のお話まで触れられて、新しいステージということをおっしゃっていました。その新しいステージの具現ということで、この問題に目に見える形で取り組むという意欲をすごく感じており、心から尊敬しますし、応援したいと思っております。

それぞれに事情があって、実施計画等になってくると、いろいろご意見が出てきます。しかし、少なくとも、ここにいるメンバーはみんな一緒になって、方向性や考え方について意見を戦わせ、今、共有しており、神戸市がミッションを遂行するにあたって、サポーターであり、協働して、応援をしなければいけないと思います。実施段階になってくると、細かいところで、いろいろ意見が言いたくなるというのは、わかります。けれども、小異を残して大同につくということで、せっかく大きな方向性を決めた以上は、みんなで前向きに協力する、これを一緒に作り上げていくということで、フォローすればいいと思っております。

今までそれぞれの会議では、具体性がないとか、早く取り組むべきだとか、スケジュールについても言ってきました。ですから、先ほど、市長のご挨拶では、具体性を出して、かつスケジュール感も随分はっきり仰っておられましたし、事務局のご説明もスケジュール感が随分あったと思いますので、ぜひそこをきちっと決めてやっていただきたいと思

ます。ただ、役所の予算は年度単位ですので、どうしても年度単位になってしまいます。でも、年度単位で決めても、実際のアクションプランとしては、四半期ごと、半期ごとということでスピードアップをして、きちっとやることをやっていただきたいと思います。例えば、山手幹線は、全線開通まで随分時間がかかりました。あんなことをやらないように、我々はこうやったら前向きにできるのではないかという応援をすべきであると思っております。メンバーの皆さんに僭越でありますけれど、私としてはそういう行政への協力を呼びかけたいと思っておる次第であります。

経済界としても、できることはこれからも実行段階で一生懸命協力をしてまいりたいと思っております。

以上です。

○会長

大きな応援演説をいただきまして、誠にありがとうございました。

ほかに、いかがでございましょうか。

○委員

ここまでまとめられて、本当に素晴らしいと思います。スタッフの皆さんの努力がこれに出たんだと思います。ありがとうございます。

ただ、この中で、出ていないのですが、神戸は国際都市でございますから、ぜひとも、お願いしたいことがあります。私たちが外国へ行くと、日本語で書かれてはいるけれども日本語でないような看板や表示が非常に目につきますが、神戸におきましても、外国人が見て、この英語はおかしいというのが公共機関や、まちの看板、ホテルの表示などに、たくさん出てきます。せっかく素晴らしい中身のものができ、これからの方向性がついたときに、最後にできる標識、看板など、その辺に書かれている各国の言葉をチェックしていただき、どこの国の人に来て、自分の国の言葉がきちり表示されているということが、国際都市神戸に一番必要ではないかと思っております。ぜひ、市長の手で、そういう組織をおつくりいただきまして、チェックしていただくというのがいいのではないかと考えております。

それと、神戸は港も150年の歴史があり、いろんな大きな船も入ってきます。それに乗ってくる観光客の方が、京都や奈良にとられることなく、神戸に滞在して、神戸を味わっていただくという、何かそういう魅力のあるものを打ち出していただくということをぜひお願いしたいと思います。また、まちの歴史の表示について、例えばフランスでは道の途中にも同じ看板で全部、ここは何年にこういうことが起こった場所だというのが表示されております。神戸も歴史的なスポットには、それぞれの地域が思いを持ったまま看板をつけたりしていますが、歴史があるものには、市内で同じ看板、標識で表現なさるのが、美しいまちの一つではないかと思っております。

今まで私もいろんなことを言いましたが、本当に、いいものが迅速に、スピードアップ

してできるということで、行動の市長さんですので、お願いいたします。以上です。ありがとうございました。

○会長

ありがとうございました。

ほかに、いかがでございましょうか。

○委員

このメンバー表を見てわかるとおり、この会議には、まちづくり協議会から多数の者が参加しています。横に座っている方々とも場を変え、所を変え、いろんな場でよく顔を合わせまして、この案件に関しても、会議は今回で5回目ですか、多分、10回以上はみんな話したと思います。それぞれ持ち帰って話をしますが、まちづくり協議会は、社長が100人、500人単位でいる協議会ですから、みんなの意見がたくさん出ますので、昼間の会議から始まって、あるときは、夜飲みながら、あるときは電話で何かのついでに、あの子の話ですがというふうに、本当に私たちは、この案件については、たくさん話をしました。その感覚からいうと、この場での議論は非常に物足りない。そういう反省があります。例えば、本音を言うと、阪急さんやJRさんとゆっくり話をしたかった。先ほど、言われたように、とりあえず、これで会議は終わりだということで、これからは、そういった話を神戸市の方を通じて本音で語り合いたいと思います。もし、よろしければ、私たちのまちづくり協議会とも一緒に話をさせていただきたい。それが、私たちまちの人間の最後の希望ですので、よろしくお願ひしたいと思います。

○会長

ありがとうございます。

阪急さん、JRさんともじっくりとお話をしたいとありましたが、いかがでございましょうか。

○委員

さまざまなご意見があつて、それぞれについて、今、どういうことはなかなか言いづらいのですが、一般論として、これから、こういった構想、ビジョンを進めていくときに、たくさんの民間会社なり、民間の人を巻き込んでいかなければいけないと思います。そのときに、必要だと思うのはインセンティブだと思います。あれをしてください、こうすべきだという要望は、そこからスタートして、いろいろ話をしていく中で、こういう条件だったら、うちにとつても、いい話ではないかと、ぜひやろうではないかという、そういう条件を示していくのが前へ進めていく上でとても重要だと思います。うまく民間会社の興味のある点、やりたいところというのを公共の立場から突いて動かしていくということが前へ進めていく上で非常に重要であろうと思います。以上でございます。

○会長

ありがとうございます。

○委員

当社で申しますと、二つの大きな立場があると思います。一つは、交通事業者ということで、神戸、大阪、あるいは、京都方面を結んでおるという立場です。もう一つは、駅を中心として、まちとの接点がございますので、まちづくりにかかわっていくという立場です。その両方において、神戸というのは非常に、大きな位置を占めておるところでございますので、そこで、大きな役割を果たしていく必要があるという思いではございます。その過程で、利用者やまちの方々と一緒につくっていかなければいけない部分があると思います。そういった部分については、一つは私企業でございますので、商売ということもありますが、もう一つは、地域に貢献する、沿線の価値を上げていくということがひいては我々の会社の発展につながるということでございますので、ぜひ、いろいろなお話を聞かせていただけたらと思います。その辺は、ぜひとも、よろしく願いいたします。

○会長

ありがとうございます。まちづくりという、やや中長期的な観点からの視点、これも企業の利益につながっていくことだと思いますが、短期的にインセンティブという表現をされましたけれども、仕組みづくりといいますか、このあたりも含めて、これから、恐らく行政サイドと実際に事業をされる皆さんとの調整、議論が始まっていくことだろうと思います。もちろん、こちらにお座りの地域の皆さんとの接点も、これからますます密度が濃くなっていくと思います。まさしく今日が議論の、ある意味ではスタートの会議になるということだろうと思います。ありがとうございます。

ほかに、いかがでございましょうか。

○委員

とてもいいものができたと喜んでる一人ですが、どうして喜んでるかということの一つ、例を出して言いますと、先週大阪のヒルトンウエストというビルで会議がありまして、そこへ行きました。その状況は、JRの桜橋口、地下鉄の四ツ橋、阪神の梅田、この三つの駅が隣接するところで、地下にはたくさんの方がおられて、随分動かれています。しかし、ウエストの中にあるブランドショップは、がらがらでした。結局、交通機関としての横移動の人はたくさんいるけれども、ショップに行っても物を買うということは、また違う人が動くので、商業施設を集約するということがまちの活性化というのはなかなか難しいと思いましたので、この案は、僕はすばらしいと思っております。

それと、私らの会社でも、5カ年計画などをつくるのですが、5カ年計画をつくって基本的なところは動かしたらだめだと思いますが、どんどん状況が変化し、経済環境も変化しますので、そこで決めたことが、実は実現不可能だとか、あるいは、新しいことをやったほうが良いということが出てくるんです。そのときに、5カ年計画に縛られると、とんでもない結果になりますので、このビジョンや構想の中で出てくる、人中心のまちというふうな基本的なコンセプトは動かす必要はないと思いますが、新しいアイデアが出てきた

ら、この計画にこだわらず取り入れていくとか、あるいは、壁にぶち当たったとき、次の手がないとか、そういう次のステップへいくための議論というのは、繰り返ししておかないといけないと思います。これができたから、このままタイムテーブルに乗せてやり切るんだという決意は大事ですが、あまりこだわり過ぎると逆にマイナスになると思いますので、その辺のことをぜひお願いしたいと思います。

それから、これを推進し、チェックをするという組織が役所の中に要るのではないかと思います。それについて、あんまり人をころころ変えられると、どこへ行くのかわからないようになりますので、できたら、数名の固定した人で10年、15年、この仕事をさせたらどうかと思います。継続してやっていける組織を役所の中につくっていただいて、推進してもらいたいと思います。その間で、我々が、役に立つことがあったらいつでも協力することについては惜しみませんので、ぜひ、そのようなことも考えていただけたらと思います。まずタイムテーブルを示していただきたいということが大きな希望であります。そういうふうな発言をしておきます。

どうぞ、よろしく申し上げます。

○会長

大変重要なことをご指摘になったんですけども、このプランを金科玉条のごとく守ろうではなくて、やはり状況に応じて変えるべきことは変えていく、進化させていくものは進化させていくというのが大事だと、私も思いますので、このあたりもぜひとも事務局のほうでご配慮いただければと思います。

ほかに、いかがでございましょうか。

お願いいたします。

○委員

ぜひ、やっていただきたいということをお願いしたいと思います。

まず、これでグランドデザインというか、一つの方向性が出たということで、これから、これを実現するに当たって、必ずやらなければいけない世代は、30代、40代ということになってくると思います。そういう意味でも既に、例えば、この中にも出ていましたけど、アーバンピクニックであるとか、こういった事業は、間違いなくその世代がやられていると思います。先ほどご紹介いただいた中に、センター街の夜バルですとか、それも、その同じ世代の中で話をしている中で、やらないといけないからやったというのが実情でして、そういった意味でも、そういった動きはもう既に出てきています。もう若手の会は、結構いろんなところで活動を始めていますので、そういったところに、例えば、市の若手の方が入ってきていただいて、同じような立場で議論をできる場ができればおもしろいかなと思います。よくいらっしゃるんですけど、発言されずに帰ることが圧倒的に多くて、僕らの話を、聞くだけ聞いて帰られるのは非常にもったいないところがあるので、ぜひ一緒にそこでこの先どうしようとか、こういうことをやりたいが、どうしたらいいのかとか、

そういった場を、僕らはしょっちゅうやっていますので、そこに入ってきていただけたらと思います。これが終わったというよりは、これができたからこそ、その議論がどんどん進んでいくのかなと思いますので、そこをよろしくお願いしたいと思います。

以上です。

○会長

ありがとうございます。

これから、南海トラフも予見されている中で、防災というのは大変重要ですが、そのあたりからコメントをお願いします。

○委員

主なことは、全部反映していただいているのですが、先ほど、市長がおっしゃって、非常に感銘を受けたのが、神戸が新しいステージに入ったということで、震災10年で復興して10年で財政再建して、ようやくキックオフできるということですがけれども、ただ、その20年の苦労というのをこのまちづくりに生かさないといけないと思います。南海トラフのときに神戸がどれほどの被害を受けるのかということについては、災害の大きさによりませんが、確実に発生することは、三宮と新神戸で電車がとまって帰れない人がいるということです。そのときに、震災を経験した神戸なのと言われることは決してあってはいけないうらろ、さすが、神戸だなとって帰っていただくということが、とても重要だと思います。そういった点で、今、ここにも書いてある水ですとか、どこに泊まっていただくか、どうやったら帰れるのかといった情報発信が、とても重要だと思います。だから、神戸に来ている限りは、防災については心配ないということが実現できるような計画というのが、もう一つ非常に重要なことだと思います。以上です。

○会長

ありがとうございます。

デザインは神戸が最も誇る一押しのところですが、いかがでしょうか。

○委員

まず、この基本構想がまとまったことは非常にうれしく思っております。デザインという立場で、ここにかかわらせていただいたわけですが、特に私は建築屋ですので、建物のデザインということを中心に考えることが多いのですが、今回の会議に出させていただいて改めて思ったことが、一つは、景観、あるいは、デザインは、三宮であれ、神戸のブランディングの一番大事なポイントであろうということです。それから、景観は、建物がつくるのではない、人がつくるんだということです。今回、特に、車から、人と公共交通への転換を図るということで、人を引き立てる施策、構想が打ち出されているわけですので、その憩う人たちの背景としての景観を考えたいと思います。どのまちでもにぎわっている通りというのは、やはり低層部がしっかりとしたにぎわい空間になっています。官民の境界ということもありますけれども、食事をしている、何かを飲んでいる、あるい

は、買い物をしているなど、そういった人のにぎわいが、そのアクティビティが、官民ともに、昼も夜もしみ出していると、これが非常にいいまちに、世界に冠する新しい公共空間、あるいは、公民空間になるのではないかと考えております。ここにも近々の計画で景観ガイドラインの策定ということが書かれているわけで、それはもちろん重要だと思いますが、まちというのは総合体ですので、建物だけで頑張ってもということもございません。としますと、チェックも含めて、例えば、神戸はデザイン都市ですから、デザイン都市チェックという形で総合的に捉えるというような、従来の建物を超えた形で、サインから、あるいは、昨今は公共空間もさせていただいておりますけれども、もう少し総合的に見る、都市デザインマネジメントみたいなものを今後神戸は世界、日本に先駆けて、やっていけると先ほどから出ていますデザインで、それもトータルのデザインとして売っていく神戸ということの一助を担えるのではないかと考えています。

○会長

ありがとうございます。

同じくデザインの立場から、お願いします。

○委員

すごくきれいにまとまったという印象を受けました。パブリックコメントを先ほどからずっと見ておきますと、やはり、賛成ばかりではないというところも散見されておりました、公共交通と人でやっていこうということに対する反論というか、心配がかなり出てきているという感想はあります。ですので、歩くのが大変な人をどう快適に移動ができるようにしていくかということと、それから、三宮までやってくる交通手段というのを考えていくということが必要だろうと思います。ストックホルムにしましても、シンガポールにしましても、公共交通の地下鉄やバス、LRT、MRTなど、そういうものが非常に快適で安い。丸三日使うととても安いというような、1回乗るのは高くても、旅行者にとっては非常にリーズナブルな値段で移動ができるというところが、いろんなモードで考えられています。ただ、交通事業者だけの採算で考えると難しいかもしれませんが、市全体として、たくさんの方がやってきて、お金を使ってくれるということで考えていくと、来やすくするというのは非常に大事な点だと思います。

○会長

ありがとうございます。

最後になりましたけれども、三宮構想会議の会長であります、小谷先生のほうから、コメントいただければと思います。

○会長

これまで委員の皆様方には大変熱心にご議論いただきましたし、事務局におかれましては、全力を尽くして取りまとめに取り組んでいただきました。私もこの委員会の一員として議論に参加させていただき、本当に光栄に感じております。なかなかこういう夢といいま

すか、未来を語るができる場というのはそう多くありません。ときには意見の食い違いもありましたが、これほど楽しく議論をできた機会はなかったのではないかと思います。皆さんの今日のご意見をお伺いして、やはり、今日が出発点であって、今回まとまったこのビジョン、それから、構想をいかに育み、見守っていくか、支えていくかということが非常に大事なことはないかと感じています。今後、事務局でそういった点にぜひともご配慮いただければと思います。

私は、交通を専門としておりますが、今回のビジョン、構想の中で、人中心、公共交通中心という新しいモデル、神戸モデルといえるようなものが見えてまいりました。ぜひ、この神戸モデルを全国に発信するとともに、着実に具体化していただきたいと思います。私も微力ですが協力を惜しまないつもりです。

先ほどから、スピード感を持ってというお話がございました。2020年に東京でオリンピックがあります、オリンピックまでの5年間、そして、オリンピックからの5年間、この10年間は、今後日本が再生していく最大のチャンスだと言われています。オール日本のイベントであります、神戸にも、その勢いをぜひとも引き込んでいただきたいと思います。先ほど、例えば、博覧会とかイベントをしてはどうかというご意見もありましたが、そのような機会も活かしながら、市民の皆さんはもとより、日本全国また海外から来られる方々に対しても、このビジョン、構想が実現していくプロセスをどのようにすればわかりやすく示すことができるか、ご検討いただければと思います。

皆様方には、本当にご苦勞さまでございました。

○会長

ありがとうございました。

この会議、1年半に及ぶんですけれども、冒頭から、私ども経済の立場から言いますと、都心というのはまちのエンジンであります。このエンジンが本当にスムーズに高回転していくというのが神戸にとって最も重要なこと、当然のことです。それは、どういうことかという、やはり、産業経済的な動きがこの都市づくりの大変重要な一翼を担っていて、今回、どちらかという、ハード整備に議論はあったのですが、両輪でいかなければならない。先ほど、インセンティブというお話がありました。経済活動を活性化させるためにこれまでなかったような大胆なインセンティブを都心、あるいは、その周辺に提示して、新しい仕組みをつくっていくことによって、経済活動をより活性化していく。我々は、神戸に関係している立場でここに集まっているわけなんですけれども、5年先、10年先、神戸の新しい都心ができ上がってくるころには、我々とは異なる、今、神戸とは関係ない人たち、あるいは、若い人たちが、ここで仕事をしたり住んだりということになっていくと思います。そのあたりも念頭に置きながら、若い人たち、いろんな野心を持って、神戸に集まってくる人たち、勉強しようとする人たち、もちろん、ここで仕事をしようとする人たち、今はないけれども、将来の神戸人にとって、どういう都心が大事なのかという

ことも考えながら、この会議は、終了しますけれども、スタートラインに立ったということで、ぜひとも、皆さん、ご協力いただければと思います。

本当に、1年半。密度の濃い議論をしていただきまして、ありがとうございました。それでは、事務局のほうに、お返しいたします。

5. 閉会

○三島都心三宮再整備担当部長

加藤先生、委員の皆様、活発かつ、大変重要な、また、建設的なご意見をいただきました。本当にありがとうございます。また、この委員会の場だけでなく、いろんな場でご相談に行ったときにも親切に意見をいただきまして、この場をかりてお礼申し上げます。神戸市といたしましては、本日いただいたご意見を踏まえまして、これから、ビジョンと構想の実現に向けて、スピード感を持ってしっかり頑張っていきたいと思っております。また、私たち、都心三宮チームと呼んでいますけれども、私たちが出世を諦めて骨を埋めるかどうかは別にいたしまして、市長がよく全身全霊という言葉が使われます。本当に、全身全霊をかけて必死に頑張っていきたいと思っておりますので、また、よろしく願いいたします。

それでは、最後、久元市長から締めのご挨拶をいただきたいと思っております。

○久元市長

どうも、今日は本当にありがとうございました。今日は各委員の皆様から、ぜひこれを前に進めていこうと、一緒にこれを具体化していこうという、そういう観点から大変力強い、また、心温まるお言葉をいただきまして、大変ありがたく感じております。ぜひ、これを具体化するために引き続き、ご理解とご協力をお願い申し上げたいと思っております。

今日いただきました意見について、全てお答えをすることはできないんですけれども、幾つか、いただきましたご意見に対して感じているところをお話をさせていただきたいと思っております。

これを具体化していくためには、今日出席いただいております委員の皆様のご協力がぜひとも必要です。ただ、これを進めていく上で、どういうふうに、監視をしていただくのか、見守っていただくのかということについては少し検討させていただきたいと思っております。委員の任期としては2年間ということをお願いしておりますので、任期が到来いたします。その後、皆様方にご参画していただくということももちろんあり得るわけですし、また、それ以外の機関をつくるということもあるかもしれません。その辺も含めて、引き続き、皆様方にご協力をお願いしたいということで考えたいと思っております。

それから、これを進めていく上で、当然のことながら、私どものほうからいろいろとご相談をさせていただく、あるいは、委員の皆様方、相互に協議をするというようなことも

あるかと思しますので、ぜひ、この三宮を初めとする都心の周辺で商業活動をしていただいております皆様方とは、これからも個別によく相談をさせていただきたい、まちづくり協議会の皆様を初め、日常的に活動されておられる皆さんとは、日常的に私どももよく相互理解が進むようにご相談をさせていただきたいと思っております。

それから、この構想に沿って、私どもは、これを具体化していきたいと思っておりますが、当然のことながら、この構想に沿いながらも、新しいことが出てくる可能性もあります。あるいは新しいことを考えていかなければならない可能性もあります。例えば、この三宮の構想を具体化していく上で、いずれ考えなければいけないのは市役所の2号館、3号館をどうするかという話です。これはただ単に庁舎を建てかえるということだけではなくて、どうしたら、このにぎわいをつくっていくのかという観点から、それから、全ての今の市役所の組織が三宮になればいけないのかということも含めた、そういう観点からも必要ですから、これはまだ、今、検討が進められていませんが、いずれ、そういうことも必要になってくる。それ以外にもあるかもしれませんが、とにかく、この構想やビジョンは進化をしていくというような観点からぜひ進めていきたいと思っております。

あと、神戸は国際都市ですから、国際的な観点からの検討ももちろん必要です。例えば、いろんな表示やサインについても、おかしい表示がないのかということをおもも気にしております。この4月から英国人に広報専門員になってもらいましたので、日々そういう点は、ネイティブの目でチェックしてもらっておりますし、英語だけではありません、中国語もハングルも、あるいは、それ以外の言語もあるかもしれませんが、私は、神戸におられるたくさんの留学生やあるいは、外国人教員の皆さんからの目でチェックしてもらいたいということも必要ではないかと感じておまして、そういうことは、地道な取り組みかもしれませんが、しっかりとやっていきたいと思っております。

それから、当然のことながら、防災の視点は重要です。神戸が経験をした、こういうような教訓をもとにまちづくりを進めていく。南海トラフ地震対策は、もうレベル1に関する対応はほぼ終わりました。あとは、レベル2をどうするのか。これもできるだけ進めていきたいと思っておりますが、その対策の非常に重要な眼目が、都心を津波から守ることです。そういう意味で、ほとんど浸水することがないような防潮堤の整備、あるいは、強化、これは、強力に進めていきたいと思っております。

ほかにも、ご指摘いただいたことがあろうかとは思いますが、これからは、連絡を密にさせていただきまして、この構想が着実に具体化するように、スピーディーに具体化するように、私どもも頑張っていきたいと思っておりますので、職員もころころ変えることなく、出世しながら、頑張ってもらいたいということで、職員の皆さんと一緒に、私も全身全霊で進めていきたいと思っておりますので、どうぞ、よろしくお願いを申し上げます。

長期間お世話いただきました加藤会長、小谷会長を初め、委員の皆様重ねて厚く御礼を申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。本当に、ありがとうございました。

○三島都心三宮再整備担当部長

最後に、事務連絡でございます。本日言い足りなかった点や、発言できなかった委員におかれましては、いつでもご意見をお受けいたしております。事前に配付させていただいております指定の用紙に記入し、ファクスを送付いただくか、もしくは、記載のアドレスまでEメールでいただくなど事務局までお届けください。よろしくお願いいたします。

最後でございますが、これまで、長い間、本当にありがとうございました。また、本日はお忙しい中、ご出席をいただきまして、本当にありがとうございます。

それでは、これをもちまして、合同報告会を閉会といたします。

○久元市長

どうも、ありがとうございました。